

(様式第 4 号)

上田市環境審議会 会議概要

1 審議会名	上田市環境審議会
2 日時	令和 7 年 12 月 16 日 午前 9 時 00 分から午後 11 時 30 分まで
3 会場	市役所南庁舎 5 階会議室
4 出席者	土川哲志会長、保母裕美副会長、西嶋治夫委員、島川清一委員、北條作美委員、金沢美智子委員、町田隆一郎委員、田島忍委員、長田光正委員、堀内百合子委員、浅輪剛博委員
5 市側出席者	【環境部】西澤環境部長 【環境政策課】中村課長、両角課長補佐兼ゼロカーボンシティ推進担当係長、甲田環境保全担当係長、小口ゼロカーボンシティ推進担当兼環境保全担当係長、吉池ゼロカーボンシティ推進担当主査、波多野環境保全担当主任、宮島ゼロカーボンシティ推進担当主事 【ごみ減量企画室】小平室長補佐兼ごみ減量企画係長
6 公開・非公開	公開 ・ 一部公開 ・ 非公開
7 傍聴者	0 人
8 会議概要作成年月日	令和 7 年 12 月 22 日

協 議 事 項 等

1 開会
2 あいさつ
3 自己紹介
4 会長・副会長の選出
・会長に土川哲志委員、副会長に保母裕美委員が選出された。
5 議事
(1) 令和 7 年度環境レポート（令和 6 年度実績）の報告
・資料に沿い、事務局から概要説明
・以降、協議
(委 員) 河川の水質検査に関わる PFAS について掲載が無いが、これは主に上水道について問題になっているからという認識で良いか。
(事務局) おっしゃる通り。飲み水になり得る水質の基準という面で PFAS が来年度から水質基準の義務になるが、現時点では国の方からも環境基準の指標に使用できる通知も示されていない。今後国から示されることとなったら調査する予定。
(委 員) 依田川と千曲川が合流する地点にある丸子川町公園付近に、矢の沢川という小さな川があるが、その水質が非常に汚いと地元でもよく言われている。小さなお子さんが河川に入って遊べるような場所でもあるため、そういったところの水質検査も行っていただきたい。
(事務局) 検討したい。
(委 員) 環境基本計画が作られたときの指標として、環境基本計画の P58「農地の保全」施策②環境配慮型農業の推進において、様々な施策について掲載してあるにもかかわらず、環境指標にはそこを調べるものが入っていない。(資料に入っていないのは) 計画策定時のため仕方ないと思うが、環境という面で施策②の方も注力して行っていただきたいと感じた。
(事務局) 指標の見直しについては、環境基本計画の中間見直しを行った際にも当時の委員の

方々に検討いただいた部分でもある。この計画の最終年度は来年度末の 2027 年度であるため、そういった視点も踏まえながら、次期計画に向けて検討する。

(委 員) 都市景観賞の表彰件数が目標に達し、非常に喜ばしいことではあるが、松本と比べると、上田市は単体の建物が表彰されている例が多く感じた。今後は、建物単体から昔の伝統あるところを活かしたエリアでの展開を進めていただきたい。

(事務局) 都市景観賞については、公募によって応募いただくもので、今年は 10 件のうち 5 件が表彰されたと確認している。

私見にはなってしまうが、見る側の視点によって「良い建物だな」と見る方が多ければ、やはり建物に偏ってしまうと思う。ただ、街並みや景観を保全する活動という視点における検討は必要であると感じるため、担当課にも共有する。

(委 員) 環境レポート資料編 P7-8 の水生生物調査結果についての表が掲載されているが、空白が多い。先ほど、「昔は継続していたが今は条件があってやっていない」等の説明があったが、そういったこと（何年までやっていた、〇〇が理由で中止している）を書いたらどうか。

(事務局) 今後は備考欄等を設け、標記方法を検討する。

(委 員) P2 のバスについて。バスは環境問題にも良く、市民の利便性もとても良いが、人が全然載っていないバスを見ると、財政的に問題ないのか心配になる。

(事務局) やはりバスの乗降人数を見ると、満員の状態で乗っているのは、学生が通学する朝、または帰りの時間のみで、日中や休日については少ない状況が続いている。この状況が示す通り、収益につながっていないという点があり財政的にも厳しい点がある。市からも様々な支援を行っているが、限界もあり、交通政策を取り巻く環境としては非常に苦慮している状況。そんな中でも、エリアを区切って料金を設定する等の、乗りやすく使いやすい賃金体系を構築しながら、より使いやすい時間帯にバスを走らせるようなダイヤの改正等に取り組んでいる。

(委 員) バスが空気を運んでいるというような批判もあるが、運んでいる空気の量は自家用車の方が比にならないほど運んでいる。パークアンドライド等を進めていくことが大事だと思う。

(委 員) 松くいについて、ただ切ってしまうだけでは、土壤環境が悪化する可能性もあるため、苗を植える等の土壤を傷めないような方法が良いのではないかと。また、外来生物については、シンジュ（別名：ニワウルシ）の繁殖を恐れている。シンジュへの対策についても検討すると良いと思う。

(事務局) 松くい虫の被害木の処理については、環境レポートの P8 にも記載があるが、自治体によっては、駆除した後、広葉樹を植え、その広葉樹で薪を作り自治体に安く提供する樹種転換を行っている。森林整備課が担当しているが、情報共有を図りながら山を守っていくために進めていきたい。

また、シンジュは特定外来生物とはなっていないが、繁殖力はとても強く、苦情もいただいている現状。環境基本計画の中で盛り込むかも含め今後検討する。

(委 員) 特定外来生物に潜入されてしまうと、大きな財政コストが発生するため、予防的に行っていくことが費用の最小化にも繋がると思うので、指標として入れた方が良いと思う。

森林整備面積が目標に対して著しく減少している状況。森林においては、CO2 の吸収等の多面的な機能があるため、他自治体で行っている長期的な計画を参考に、上田市も取り組んでほしい。

(委 員) シェアサイクルの利用が増加傾向にあるのは、上田市民が使用しているのか、あるいは観光を目的に増加しているのか。

(事務局) シェアサイクル導入当初は、観光メインを想定していた。本取り組みは、上田市と千曲市の共同で行っており、上田市は別所線等の観光スポットを中心に配置していたが、実際の利用状況を確認すると、観光面以上に、通勤や日頃の移動等の日常の足として

使っていただいている。冬は路面凍結による事故防止のため取り組みを一時的に中止しているが、暖かい時期になればまた利用可能になる。

(委 員) 群馬県で行われているシェアサイクルはとても良いと思う。車道と分けた一段高い位置にサイクルロードがあり、地域住民と観光客の方が使いやすい位置になっている。その一方で長野県の道は非常に危ない。対策には費用が関係するため、すぐには言わないが検討していただきたい。

(事務局) 上田市周辺の特徴としては、土地が狭く、その狭い場所に住宅が連担しているため、このような状況の中で自転車専用道路を作るとは、道路の拡幅が必要になり中々難しいというのが現状。しかし、今後はコンパクトシティ化を目指す中で、自転車もよりよく乗っていただけるような道路も考慮していくと思われるので、ご意見について担当課と共有する。

(委 員) 環境レポートの P3 にある大気汚染環境基準達成度について、県と行っていることではあるが、書面を見て話を聞くより実際にどんな測定をしているのか可能であれば見学したい。

(事務局) 県と協議し検討する。

(委 員) 環境レポート資料編 P5 の公害に関する苦情の推移について、R1～R2 にかけて苦情件数が急増し、R4 にかなり減少しているが、その要因は何か分析しているのか。

(事務局) 分析はできていない。必要に応じて追って回答する。

(2) 上田市地球温暖化対策地域推進計画進捗報告 (2024 年度末版)

- ・資料に沿い、事務局から概要説明
- ・以降、協議

(委 員) 資料 2-1 のスライド 7 「基本方針に基づく 2025 年度の取組と次年度の予定」において、太陽光補助金の実績値が目標の半分を下回っており非常にもったいないと感じるが分析等は行っているのか。

(事務局) 要因の一つとして考えられることとしては、国で行っている「FIT 制度」が今年の 10 月から一部変更となったことが挙げられる。実際に FIT 制度を使って太陽光の設置をする方は、10 月以降に国に申請をしないと該当しないという形になっており、その影響も考えられるが、年間約 300 件前後の推移で行っている。

(委 員) スライド 5 において、市有施設の屋根が今年度は増加しておらず、2030 年目標 (計画) に対する進捗状況として、このペースで達成可能なのか。

(事務局) 脱炭素先行地域という国の交付金事業において、上田市の計画が認定され、来年度塩田エリアで計 100kW 超を載せる予定ではあるが、2030 年度目標の 3,000kW は厳しい現状。様々な制度や国の交付金等を活用しながら目標値に近づくよう努めていく。

(委 員) 市の補助制度やサントエナジーうえだの取組もあり、太陽光パネル設置に経済的メリットはあると思うので、付けない理由 (高齢夫婦で住んでおり後継者がいない、日影が多い等) を細分化しつつ、どのように進めていくべきかを検討していただきたい。

(事務局) サントエナジーうえだで進めている PPA 事業もあるが、高齢の方には制度が難しいこと、PPA の性質上、ある程度長期で投資を回収していくという特徴がありご理解をいただくまでに時間を要している部分があると感じている。課題もいくつか見えてきている中で、その課題を解決しながら進捗を進めている状況ではあるため、次年度以降進捗スピードも上がることを予想している。引き続き様々な立場から御協力・御教示いただきたい。

(委 員) 概要版スライド 2 「目標の進捗状況」において、2030 年度目標の数値と大きく乖離しており、危機感を覚えている。特に、運輸部門と家庭部門の減少幅が小さいが、目標を達成するにあたり今後どのように取り組んでいくのか。

- (事務局) 別所線エリアに限った話にはなってしまうが、地域で生み出したエネルギーを地域で使うといった仕組みで別所線の維持活性化、また別所線のゼロカーボン運行、そして市民の方が使いやすいようなチケット QR システム等と連携する形で住民の方に利用していただき、家庭の自家用車の使用頻度を減らしていく取り組みを行っている。この取り組みは、地域全体に対しての効果としてはわずかな部分になってしまうが、上田市としては公共交通を軸に進めていきたい。また、シェアサイクルについても、予算との兼ね合いもあるが、台数や借りる場所の増加を担当課で計画しているため、そこを重点的に取り組んでいきたい。
- また、住民に対しては太陽光設置だけでなく断熱改修も 3 年ほど前から上田市独自で行っている。太陽光はある一定の需要部分で高止まりしてしまう部分があるが、断熱に関しては右上がりの状況。引き続き周知をしながら、来年度も補助事業をできるだけ活用いただけるよう取り組んでいく。
- (委員) 上田市地球温暖化対策地域推進計画 P56「燃料転換の推進」において、燃料転換に関して何か取り組んでいることはあるのか。
- (事務局) 買った電気を太陽光に転換するような周知は行っているが、それ以外は十分ではない部分がある。
- (委員) 同ページ下部「燃料による CO2 排出量の違い」をみると、灯油を都市ガスに変えるだけで CO2 が 27%削減可能だとわかる。上田市は、冬場の灯油使用量が非常に多いため、こういった情報提供をもう少し行っていくと良いのではないかと。
- (事務局) 周知を行い、引き続き温暖化対策を進めていきたい。
- (委員) 意見になるが、丸子にある梶子ワイナリーでは、ワイナリーだけでなく、太陽光発電所や小規模な水力発電所、ヤギ牧場がある。特にヤギ牧場では丸子給食センターのくず野菜を肥料としており SDGs に貢献している。これだけ施設が整っている地域は世界的に見ても魅力的な場所だと思うので、県や国と協力して進めていただきたい。
- (委員) (概要版スライド 4) 中小水力発電がほぼ目標に達成している中で、作りやすさにも違いがあると思うが、小サイズを増やす取り組みはどうか。
- (事務局) 民間事業者の水力発電と様々な流量調査等を進めようとはしたものの、冬の流量が少なく中々進んでいないものがある現状。
- 上田市が直接的に行う予定は現時点では無いが、関係者と協議する中で新たな可能性があれば引き続き推進していきたい。
- (委員) 企業による脱炭素問題は非常に大きな問題である。CO2 を削減するにあたっては、一つ指標を持って政策に反映していくと、CO2 を削減するにあたってどれだけのコストが必要になるかが出てくると思うので、(指標の) 設定を検討いただきたい。
- (委員) (別紙資料の 6 ページ) 葉の数が多い方が森林の CO2 吸収量が多いのではないかと感じる。樹木の幹で固定する炭素固定ではなく、落ち葉や土壌で炭素が固定されると考えると老木であっても炭素固定に役立つのではないかと。何か知識があれば伺いたい。
- (事務局) 老木は CO2 を貯蓄(ストック=固定)していることに対して価値があると考えます。
- (委員) 80 年以上の森林においても、それ以降は基本的に吸収を続けている評価になるため、ある一定の年齢を超えるとゼロになるわけではない。
- また、根の部分の CO2 吸収量も係数の中では算出する中に含まれているため、幹だけでなく根の部分も含めた木全体の CO2 吸収量として算出されている。
- (委員) 本日いただいた資料の表記方法、貴重な要望意見等については、他部局含めて連携を取り、次期計画につなげていただきたい。

3 事務連絡等

4 閉会

